

熊本都市圏 都市交通マスタープラン

Kumamoto Urban Transportation

MASTER PLAN



令和8年3月

熊本都市圏総合交通計画協議会

はじめに

熊本都市圏総合交通計画協議会では、昭和48年以来、概ね10年ごとにパーソントリップ調査を実施し、都市の成長段階に応じた交通政策の提言を通じ、熊本都市圏の健全な発展に寄与してまいりました。第5回調査となる令和5年度の実施にあたり、前回調査から十余年が経過し、社会経済状況は大きく変化しております。

とりわけ、TSMC の進出を契機とした北東部地域への産業集積の進展は、地域経済の活性化を促す一方、通勤交通の急増や周辺道路網への負荷上昇をもたらし、都市圏全体の交通環境に新たな調整が求められる状況となっています。また、都市圏では慢性的な交通渋滞が恒常化し、自動車に依存した移動構造の限界が改めて顕在化しております。

公共交通、特にバス交通を取り巻く環境も厳しさを増しています。利用者の減少傾向に加え、いわゆる「2024年問題」による運転手不足が顕在化し、地域交通ネットワークの維持が困難となりつつある地域も見受けられます。高齢化の進展や生活様式の変化に対応しつつ、持続可能な公共交通を確保することは、都市圏として喫緊の課題であります。

一方で、自動運転自動車やライドシェアなど、新たな移動サービスの導入に向けた社会的・技術的な動きが進展しつつあります。これらのサービスを将来の都市交通体系の一部として適切に位置付け、多様な移動ニーズに応える仕組みを構築することは、人口減少社会における都市の持続性を高めるうえで重要な視点であります。

本調査は、このような社会動向を踏まえ、熊本地震や新型コロナウイルス感染症、企業立地動向の変化等が都市交通へ及ぼした影響を含め、最新の人の移動実態を精緻に把握することを目的として実施いたしました。そして、得られたデータを基礎とし、顕在化している、従来の課題対応型の交通対策のみでは解決が難しい問題等を踏まえ、新たに「熊本都市圏都市交通マスタープラン」を策定します。

本マスタープランでは、目指すべき将来像を明確に掲げ、その実現に向けた具体的な目標値を設定するとともに、自動車依存からの転換、公共交通の再構築、多様な移動手段の確保・活用、さらに新技術の導入を見据えた政策展開を示しております。また、本マスタープランの推進に当たっては、進捗を適切にモニタリングし、住民や関係者との合意形成を重視しつつ、不断の見直しと改善を行うこととしております。これらの枠組みは、欧州で導入が進む「持続可能な都市モビリティ計画(SUMP)」の考え方を参考にしたものであり、都市交通の質的転換を図るための指針となるものです。

本マスタープランが、今後、関係自治体、交通事業者、企業、そして住民の皆様の取組みを推進し、熊本都市圏の持続可能で活力ある都市交通の実現に寄与することを期待するものであります。

末筆ながら、パーソントリップ調査にご協力いただきました住民の皆様をはじめ、本マスタープランの策定に携わられた関係者各位に対し、ここに深甚なる謝意を表します。

令和8年3月

熊本都市圏総合交通計画協議会

会長(熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 教授) 柿本 竜治

MASTER PLAN

熊本都市圏都市交通マスタープラン

目次

01	都市交通マスタープランとは	
1.1	都市交通マスタープランの位置付け	1
1.2	パーソントリップ調査とは	2
1.3	これまでの取組み成果と課題	4
02	都市圏交通の現状と将来の見通し	
2.1	都市圏人口の動向	9
2.2	都市圏の人の動きの変化	10
2.3	都市圏を取り巻く社会情勢の変化	12
2.4	都市圏交通の現状と主な課題	13
2.5	都市圏交通の現状のまとめと将来の見通し	20
03	都市圏の交通ネットワークの将来像	
3.1	都市圏の将来像	23
3.2	交通ネットワークの将来像	25
04	将来交通計画	
4.1	計画の目標(実現を目指す将来の姿)	31
4.2	計画策定の方針	33
4.3	公共交通の主な提案施策	47
4.4	道路の主な提案施策	49
4.5	提案施策に期待される効果	51
05	今後の取組み	
5.1	アクションプランの策定	53
5.2	モニタリングによる計画の推進	53
5.3	関係者一体となった計画の推進	56
	巻末資料	
	協議会・幹事会 名簿	59
	用語集	60

